

新しい 住まいの設計

建築家・
ヤコブセンの世界

都市型 VS 郊外型

In the town?

Out of the town?

「構造表し」で、住まいも人も健やかに。
自然と寄り添って暮らす素朴な住まい



高

松市街から南へ車で30分。起伏の少ない地に続く田園風景になじむ、焼杉板張りで素朴な表情をした建物がFさん宅だ。

日当たりがよく、127坪とゆつたりとした土地は、もともとは西隣にあるご主人の実家の敷地。5年ほど前からご夫婦は、ここに自然素材の家づくりを考えていたという。数軒工務店を巡っている際に、OMソーラーの人の暖かさに出合った。「エアコンの温風が苦手だったので、OMはひと目で気に入りました。で、OMはひと目で気に入りました。で、住宅誌で菅組がOMを扱っているのを知って、オープンハウスを何度か見に行ったんです」(奥さま)

家づくりに熱心だったのは、奥さまのほう。はじめは別の企画型住宅を希望していたが、30代の若夫婦には資金面が追いつかない。家づくりが頓挫していた頃に、菅組では若い世代に向けたリーズナブルな企画住宅が生まれようとしていた。

菅組は、「近くの山の木で家をつくる運動」を行っていて、国産材をメインに使った木の家を多く手掛け

work

Fさんの家 香川・香川郡

本体工事費 ● 1682 万円

3.3㎡単価 ● 46.3 万円

床面積 ● 120.00 ㎡

家族構成 ● 夫 35 歳 妻 32 歳

長女 6 歳



「食堂や居間というように空間を区切るのではなく、食事をする場だったり、家族団らんのスペースだったり、家事をしたり、本を読んだり…。いろいろと使える“広間”と考えました」（菅さん）。構造表しのオープン空間は、湿気がこもらず、建物の骨組みが傷むことはない

四季の移ろい、太陽や風を感じながら、すっぴんの家で暮らす。いよいよ冬本番。OMソーラーの温もりを感じながら暮らす日々を、家族そろって楽しみにしている。

「正直、夏は暑かったですよ。冬でも遮熱がしっかりしているから、前の家とは暑さの度合いが違う。あと、田んぼから渡る風がひんやりとしてなかなかいいんです」（奥さま）

「正直、夏は暑かったですよ。冬でも遮熱がしっかりしているから、前の家とは暑さの度合いが違う。あと、田んぼから渡る風がひんやりとしてなかなかいいんです」（奥さま）

「この家は、（建築家）と建築家というシステム住宅の第1棟目なんです。スケルトン&インフィルで、箱型2階の中に自由な間取りがつけられる。設計や積算手法に一定のモデルを設けたことで、経費を大幅に削減できました」（専務取締役・菅原夫さん）

プランはとてもしンプルで、1階はLDKと水回り。2階は仕切りのない広間と寝室という構成。高知杉を使った構造表しに、壁の仕上げ材は土佐和紙と健やかさに包まれるかのよう。ここで娘さんと3人、夏はエアコンなしで乗り切った。

ている。近隣の木を使うことで、林が手入れされるようになり、生態系が守られる。ひいては地域の経済も活性化される、という考え方だ。

「この家は、（建築家）と建築家というシステム住宅の第1棟目なんです。スケルトン&インフィルで、箱型2階の中に自由な間取りがつけられる。設計や積算手法に一定のモデルを設けたことで、経費を大幅に削減できました」（専務取締役・菅原夫さん）

プランはとてもしンプルで、1階はLDKと水回り。2階は仕切りのない広間と寝室という構成。高知杉を使った構造表しに、壁の仕上げ材は土佐和紙と健やかさに包まれるかのよう。ここで娘さんと3人、夏はエアコンなしで乗り切った。



総2階で安定感のある外観は、切妻屋根はガルバリウム鋼板で外壁は焼杉板張り。装飾を排しながらも素材感が伝わってくる、凛としたたたずまいだ。バルコニーと玄関ドアに塗られたべんがら色がアクセントに



(右)「キッチンの収納はできるだけ多いほうがいいし、吊り戸棚も欲しい」という奥さまの希望で、開仕切り壁にハッチが開いたセミオープンタイプに。テーブルは「讃岐舎プラン」オリジナルで、サイズが自由にオーダーできる(左)ヨコに長い形状をした玄関には、天井高までの収納を設置。庭仕事で使うものも奥に置き、土間として使える。庭はホームセンターで枕木やレンガを手に入れ、自分たちで整えた



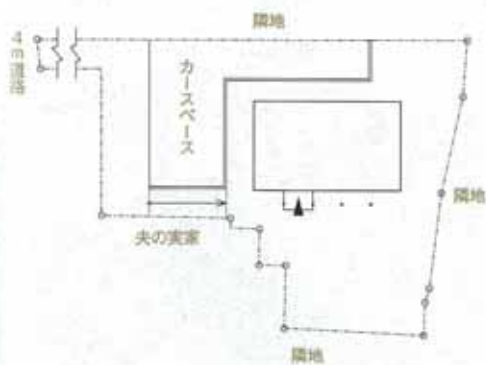


(右)簡素で機能的な「Nキッチン」は、OMソーラー協会のオリジナル(左・下)「実は、主人はひとりであるのが好きじゃないみたいで」と笑顔で話す奥さま。この、どこにいても家族の気配が感じられるオープンなプランを、ご主人がなによりも気に入っているのだとか。OMソーラーの冬モードが作動すると、階段下にあるような床の吹き出し口から暖気が立ち上り、さらに暖気は階段を介して2階へと伝わる。壁や屋根などには断熱材として木質繊維のセルローズファイバーが使われ、外気温に左右されにくい高断熱のつくり





階段を上ると、スパンと広がるのがこの「2階の広間」。「子供室というのではなく、成長に合わせてどうにでもできる空間です」(賢さん)。「讃岐舎」では、床面積以外に10畳のロフトがとれるメリットも。勾配天井と一体となって空間に変化をもたらし、収納に使える



パイン材フローリングの仕上げは、ご主人と友人でクリアワックスを塗った。木の空間を彩るのは、風合いのあるカゴや家具。木製テーブルに、奥さまがインターネットで購入したイギリスのアンティークものの椅子を合わせている

社名 ● 菅組(すがぐみ)
 代表者 ● 菅 磯夫
 住所 ● 本社：〒769-1406 香川県三豊郡仁尾町辛15-1
 ☎0875-82-2441
 http://www.suga-ac.co.jp/
 年間建築棟数 ● 新築 35 棟
 社員数 ● 100 名 (一般建築部門含む)
 平均坪単価 ● 40 ~ 60 万円
 主な工法 ● 木造軸組工法、SE 構法、木造枠組壁工法、RC 造、鉄骨造
 建築地域 ● 香川県全域、愛媛県東部
 設立 ● 1962 年 5 月
 定休日 ● 日曜、祝日、第 2・4 土曜

リビングには家族みんなのスタディコーナーも。長女も覚えてたのパソコンに興味津々だ

工務店からひとこと



これまでは、20~30代の若い夫婦が「木の家に住みたい」と思っても、予算が合わずあきらめてしまうことがよくありました。この家が第一弾となった「讃岐

舎」は、若い世代に向けたコストパフォーマンスの高いシステム住宅です。「讃岐舎」では、建物の形は総2階の箱型プランに限定していますが、間取りは自由。設計手法などに独自のルールを設けたことで、骨組を表した「木の家」をリーズナブルな価格帯で実現することに成功しました。私たちが大切にしているのは、見かけの豪華さではなく素材感の伝わる上質な空間であるということ。さらに、空間を個性化するのではなく、連続する空間にそれぞれの役割スペースを付与するという形で構成しています。流れるように続く空間を「OMソーラー」と高性能なエコロジ断熱材「セルロースファイバー」が快適な環境に保ちます。このプランは非常に好評で、現在続々と完成しています。見学会を随時開催しておりますので、その空間を体験してみてください。(専務取締役 菅磯夫さん)



(右)配管上、水回りは上下階でそろえるのがローコストのカギ。F部でも西側に水回りがすっきりおさまられている。必要最小限の設備が備えられた洗面所は広く、洗濯や脱衣の際も動きやすい(左)唯一仕切られた居室が、2階の西側にある寝室。吹き抜けに大きめの窓も設けられ、明るく開放的。ロフトは、ホールの吹き抜けと連続している



D A T A
 敷地面積 / 422.00 m² (127.88 坪)
 床面積 / 120.00 m² (36.36 坪)
 1 階 / 60.00 m² (18.18 坪)
 2 階 / 60.00 m² (18.18 坪)
 用途地域 / 無指定
 建ぺい率 / 70%
 容積率 / 200%
 構造 / 木造軸組工法
 竣工 / 2005 年 3 月

